



公園概要

高田松原津波復興祈念公園は、**東日本大震災津波の犠牲者を追悼・鎮魂し、震災の事実と教訓を継承するとともに、まちづくりと一体となった地域の賑わいの再生に資すること**を基本理念としています。

令和元年9月22日、公園の主要施設である国営追悼・祈念施設の一部、道の駅高田松原や東日本大震災津波伝承館が利用開始となり、これまでにたくさんの方が来園されています。

また、令和3年4月に国営追悼・祈念施設周辺を中心としたエリアが利用開始となりました。令和3年内の全面利用開始に向け、順次エリアが拡大していきます。



市民協働グループの取組

当公園の基本方針では、当公園を市民、NPO、企業など多様な主体が施設維持活動、植樹活動、伝承活動、防災学習活動等で参加・協働できる場とすることとして位置づけられています。

その基本方針を踏まえ、公園管理者とともに公園の管理運営と一緒に取り組む協働グループを募集（令和3年3月末時点で27団体が登録済）しています。

協働グループでは、高田松原の植樹といった活動をしており、今後語り部活動などしていく予定です。



震災伝承施設



震災伝承ネットワーク協議会（構成機関：東北地方整備局、青森県、岩手県、宮城県、福島県、仙台市）では、東日本大震災から得られた実情と教訓を伝承する施設を「震災伝承施設」として登録しています。

本公園内では、「高田松原津波復興祈念公園」、「高田松原国営追悼・祈念施設」「東日本大震災津波伝承館」のほか、「奇跡の一本松・陸前高田ユースホテル」、「道の駅高田松原タピック45」、「下宿定住促進住宅」、「気仙中学校」が登録されています。

アクセス

【公共交通機関】

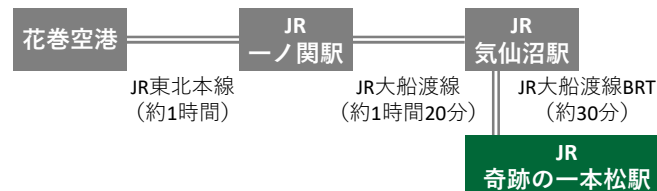


●花巻空港への所要時間

札幌から約1時間
名古屋から約1時間10分
大阪から約1時間20分
福岡から約1時間45分

●JR一ノ関駅への所要時間

仙台から東北新幹線で約40分
東京から東北新幹線で約2時間



【自動車】

盛岡	東北自動車道～釜石自動車道（宮守IC）～国道107号～国道340号（約1時間40分）
釜石	三陸自動車道（通岡IC）～国道45号経由（約40分）
一ノ関	国道284号～気仙沼～三陸自動車道（陸前高田長部IC）～国道45号（約1時間20分）
仙台	仙台東部道路～三陸自動車道（陸前高田長部IC）～国道45号経由（約2時間10分）

高田松原
津波復興
祈念公園



出典：国土地理院ウェブサイト（<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>）
※地理院地図（タイル）を基に作成

編集・発行（令和3年4月発行）

岩手県 県土整備部 都市計画課

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

TEL：019-629-5890／FAX：019-629-9137

<https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/toshigesui/kouen/index.html>



高田松原 津波復興祈念公園



わんこ
きょうだい
そばっち



わんこ
きょうだい
うにっち



本公園は東日本大震災の津波浸水区域です。
利用に先立ち、必ず **ご自身の位置** と
避難経路・避難先 をご確認ください。

1 道の駅高田松原



多くの観光客を迎え入れる「三陸観光のゲートウェイ」。
三陸地方の特産品を味わい、触れることができます。



2 東日本大震災津波伝承館



(いわてTSUNAMIメモリアル)
津波の映像や写真、被災者の声や被災物の展示などを通して、震災の事実と教訓を伝える施設。
解説員が常駐しています。



3 タピック45

(旧道の駅高田松原)

破壊された建物内部の壁により、津波の威力を後世に伝える震災遺構。
公園ガイドの案内により、内部見学ができます。



4 下宿定住促進住宅

津波の到達した高さを示す震災遺構。
最上階の5階部分だけベランダのパネルが残存しています。



5 気仙中学校

日頃からの訓練により震災時一人の犠牲者も出さなかったことから、防災教育の重要性を理解できる震災遺構。
公園ガイドの案内により、内部見学ができます。



6 奇跡の一本松

津波により高田松原の約7万本の松が流された中、唯一耐え残った復興のシンボル。
2012年5月に枯死が確認されたが、2013年7月にモニュメントとして保存。



7 陸前高田 ユースホステル

建物が半壊・水没しており、津波の威力を後世に伝える震災遺構。
この建物のおかげで奇跡の一本松が生き残ったと言われています。

8 高田松原海岸

高田松原海岸は、海水浴をはじめとして年間約100万人の観光客が訪れていたが、津波により砂浜が消失。
平成31年3月に砂浜の再生(養浜)が完了し、令和3年夏に海水浴場がオープンする予定です。

